

CRED レター

【No.6】

Center for Research and Educational Development (CRED) ※CredibilityのCRED「クレッド」とご記憶ください

◆ 本学の情報リテラシー教育支援とこれからの新たな学び場「ラーニング・コモンズ」

CRED 企画「ラーニング・コモンズと新しい教育 / 学修支援」グループ

はじめに

大学全入時代と言われる状況を迎え、学生が何を学び、「何ができるようになったか」に力点を置く教育が重視されるようになりました。そこでは、「課題に関する多様な情報を収集・分析し、多面的な視点をもって能動的に課題に取り組む」ことが重視されます。この教育が進んだことは、学士課程教育答申（平成20年）がきっかけとなって進んだラーニング・コモンズの設置にあらわれています。そして東日本大震災などの大きな課題に直面した今日、課題解決能力の必要性はさらに高まりました。

このような状況の中、私たちは、課題解決能力の中でも基礎的・汎用的な能力である「情報リテラシー」を学生に身に付けてもらうことを目的として、全学共通教育科目「実践情報活用I」の授業を中心に、図書館・e-kasei推進室（eラーニングを推進する部署、使用システムはmoodle）が連携して教育支援を行っています。

このレターでは大学を取り巻く社会的背景を概観し、私たちの取り組みとラーニング・コモンズについて紹介させていただきます。

大学を取り巻く社会的背景

ここ20年間の18歳人口の減少と大学進学率の向上により、大学全入時代と言われる状況となりました。そして、専門教育のレベル維持のため、基礎学力の補習が広く行われるようになりました。一方、社会が直面する多様な課題に積極的に取り組むことができる人材の育成が社会的希求となり、専門教育のレベル維持とは異なる新たな大学教育が求められるようになってきました。

それが顕わとなったのが、今年1月に文部科学大臣決定となった「高大接続改革実行プラン」です。そこで示された「大学教育での総合的な学力の育成」と「大学入学者選抜での新テスト創設」が、大学・社会に大きなインパクトを与えています。「大学教育での総合的な学力の育成」はすでに7年前の答申で示されていたものの、その後の震災からの復興、新たな社会の創造といった社会的希求とあいまって、より強く示されるようになりました。さらに、「大学入学者選抜での新テスト創設」では入試改革のスケジュールが示され、改革待たなしの感をさらに強めています。また、すでに初等・中等教育において能

動的学習が広く行なわれており、その教育を受けた学生が大学に入学してきている、という現実もあります。このような変化の中で、新しい学び場、新しい教育支援の場であるラーニング・コモンズが注目され、多くの大学で導入が進んでいます。

そこでここでは、私たちが行っている情報リテラシー教育支援の現状を概観し、ラーニング・コモンズの好例である千葉大学アカデミック・リンクを紹介し、本学における新たな学び場について考えたいと思います。

図書館による情報リテラシー教育支援

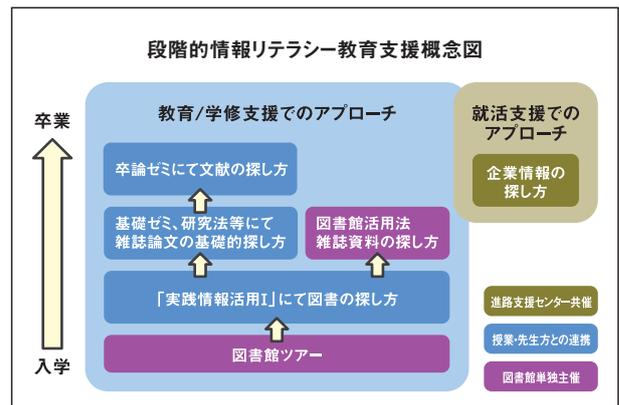
1. 情報リテラシー教育支援の目指すところ

図書館では学生が入学してから卒業するまでに段階をおって、情報リテラシー能力を高められるよう、教育支援を行なっています。その実施状況、実施上の工夫、今後について述べていただきます。

2. 実施状況

まずはじめに、板橋図書館における情報リテラシー教育支援は入学から卒業まで段階的に情報リテラシーを修得できるよう、教育支援の体系化を図っています。（下図概念図）

そして平成26年度は、教育/学修支援でのアプローチとして、「実践情報活用I」「総合演習」「心理カウンセリング基礎論」「基礎ゼミ」「児童学研究法」の各科目、卒論・ゼミ等において107回の活動、2,517人への支援を行いました。また、図書館主催の「図書館ツアー」「図書館活用法・雑誌資料の探し方」を72回、256人の学生に対し実施しました。



就職活動でのアプローチ（進路支援センターとの共催）は12回、460人の学生に行いました。これらを合計すると191回、3,233人となります。さらに平成27年度は狭山図書館においても情報リテラシー教育支援を本格稼働しました。

3. 実施上の工夫

a. 「東京家政大学生のための情報リテラシーテキスト」の作成

前述の授業支援等に用いるテキストは図書館職員が毎年度作成しています（右図）。情報リテラシーテキストの内容は図書/雑誌論文や新聞情報の探し方、就職活動のための情報収集、著作権法、参考文献の書き方などです。さらに、巻末に新入生向けに大学での学びのための図書、レポート/卒論の書き方、プレゼンテーション、著作権についての所蔵図書リストを付けています。



b. e-kaseiの利用

e-kasei推進室との協働により学びの振り返り、反転授業を行っています。「実践情報活用I」では、授業支援内でe-kaseiの小テスト機能とアンケート機能を用い、全33クラスに対し統一した問題を使って、学びの振り返りを行っています。このような学びの振り返りにより、学習の定着が向上すると期待できます。児童学科「児童学研究法」では、e-kasei上で事前課題にとりくみ、授業支援で答え合わせを行なう反転授業の手法をとり入れています。

4. 今後のこと

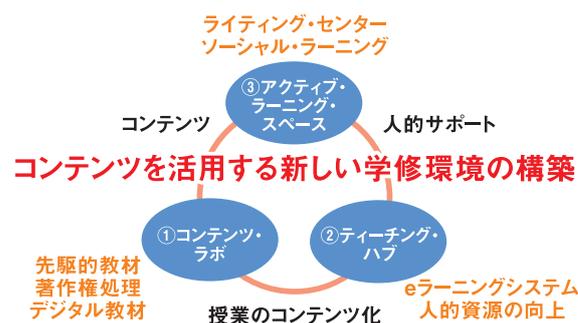
先生方、学内各部署と強く連携することで、さまざまな場面で学生が繰り返し学ぶことができるようになります。この繰り返し学修が情報リテラシー能力の向上に繋がると期待しています。

「ラーニング・コモンズ」の例 千葉大学アカデミック・リンク

私たちは昨年9月にラーニング・コモンズの好例である千葉大学アカデミック・リンク（以下アカデミック・リンク）を訪れました。その時いただいた資料をもとにアカデミック・リンクを紹介します。アカデミック・リンクは「考える学生の創造」を目的として、2012年に図書館をリニューアルして開設されました。①コンテンツ・ラボ、②ティーチング・ハブ、③アクティブ・ラーニング・スペースの3要素が繋がっていることがアカデミック・リンクの大きな特徴です。この“つながり”によって、コンテンツと学習が接近し、もっと調べたいという意欲が増し、能動的学習が促進されます。（右上概念図）

①コンテンツ・ラボには図書館蔵書、電子ジャーナル、Web上の学習資源、機関リポジトリ等の図書館の機能に加え、教材作成支援・教材動画収録・教材コンテンツ制作といった

千葉大学アカデミック・リンク 3つの機能とつながりについての概念図
（センター長 竹内比呂也教授 紹介スライドを元にした図）



参考Web【千葉大学アカデミック・リンク・センター 2013年度アニュアルレポート】
http://alc.chiba-u.jp/annual_report.html

本学e-kasei推進室の機能が含まれます。②ティーチング・ハブには「学習支援デスク」、「調べもの相談」、「教員オフィスアワー」といった、大学院生、図書館員、教員による人的支援があり、eラーニングシステムも活用されています。この機能を本学におきかえると、図書館とe-kaseiが繋がって発展したのとなっています。これらに加えアカデミック・リンクには、学生がこれらの教育サービスを受け、かつ、さまざまなスタイルで学べるスペース：③アクティブ・ラーニング・スペースがあります。私たちは、本学にはこのような新しいラーニング・スペースが必要であると考えます。

これら取り組みによりアカデミック・リンクは「これからの知識基盤社会、学習社会を担う市民の育成」、「高等教育のグローバル化の中での質の維持・向上」、「職業人としての基礎能力、創造的人材の育成」といった社会的希求と、「自由に使える学習スペース」、「文章作成力、ディスカッション能力、問題解決能力の養成」、「英語によるコミュニケーション能力の向上」といった学生の学修ニーズを見事に融合させた学び場となっています。

まとめ

大学を取り巻く社会的背景を確認し、私たちの活動を振り返りました。そして先進的なラーニング・コモンズを学ぶことで、私たちが行っている教育支援の必要性を再認識しました。さらに、今の活動を有機的に繋げスケールアップさせる必要があることも知りました。これらの理解を通して、学生がそこに行きたくなる新しい学び場が東京家政大学に必要であることを痛感しました。

今後私たちは、東京家政大学らしい新しい学び場・ラーニング・コモンズの実現に向けて活動を進め、新しい教育支援を充実させていきたいと考えています。

©CRED企画「ラーニングコモンズと新しい教育/学修支援」グループメンバー
教育・学生支援センター e-kasei推進室 新関隆（代表）、安積和広 / 図書館 吉村扶見子、鈴木恵津子 / 共通教育推進室 情報関連科目部 橋本直樹 / 学修・教育開発センター 宮東城